

持続的成長のためのCSR活動

健康で豊かな社会

検査を通じた医療課題の解決

先進国の医療費抑制・健康寿命延伸や新興国・途上国の医療サービスへのアクセス向上等の医療課題を解決するべく、疾病の予防・早期発見、治療方針の決定に不可欠な検査試薬・検査・診療支援サービスの開発と普及に努める。

臨床検査の品質向上に寄与する研究開発

みらかグループでは、医療の進化に対応すべく、積極的に研究開発に取り組んでいます。エスアールエルでは、2014年9月に胃がん、神経芽細胞腫の再発および予後リスクを予測する「DNAメチル化解析検査」を導入しました。判定結果によって、治療方針を選択でき、悪性や多発性のがんであれば、より徹底した治療の選択に役立てることが出来ます。また、富士レリオでは、2017年1月に、ルミパルス®専用試薬「Lumipulse® G B-Amyloid1-42」の販売を欧州で開始しました。院内検査がより容易になるとともに、検査の効率化が見込まれています。これまで培ってきた独自技術を活かし、医療の進歩に貢献する新しい「検査」によって、さらなる品質の向上を目指していきます。

●セグメント別研究開発費 (百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度
研究開発費(連結)	4,748	5,365	5,937
臨床検査薬事業	4,450	4,740	4,845
受託臨床検査事業	297	251	320
みらか中央研究所	—	373	771

※数値は百万円未満を切り捨て
※2018年度は海外の受託臨床検査事業を除く



HTLV-1 ウイルス 母子感染予防への貢献

富士レリオでは成人T細胞白血病などの原因とされる「HTLV-1ウイルス」の母子感染を未然に防ぐ「イノリアHTLV」を使った検査を確立し、実際に製品を上市することができました。既存の検査法に比べ、判定保留が減ることで、母乳で育児ができる母親が増えることにつながり、栄養方法の保健指導もより適切に行えるようになりました。このような精度の向上により日本産婦人科医学会等の関連学会の推奨を取得するとともに、妊婦健診等の「HTLV-1感染の診断指針」へも掲載され、検査の有効性をご評価いただいています。



社外との協同研究の推進

みらかグループでは検査技術の向上のため、積極的に社外との協同研究を推進しています。検査と治療が今後さらに密接に関連することで課題の解決に向かうと考え、製薬会社をはじめとした社外との協業により、足並みを揃えた検

査や試薬の開発を推進しています。中でも、各製薬会社と取り組んでいるアンメット・メディカル・ニーズを満たす医薬品の開発に対して、治験検査の向上によって貢献していきます。

協業による疾病の早期発見・予防を

味の素株式会社は、最大7種の現在がんである可能性を1回の採血で評価する「アミノインデックス®がんリスクスクリーニング(AICS®)」を開発しました。病院・健診施設に強いエスアールエルとの協業により、多くの受診者さまに検査を受けていただくことができ、2011年の発売以来、順調な成長を遂げています。2017年11月には「4年以内の糖尿病発症リスク」等の評価を加えた「アミノインデックス®リスクスクリーニング(AIRS®)」を発売し、さらなる疾病の早期発見・予防に貢献していきます。

味の素株式会社
アミノサイエンス統括部
アミノインデックスグループ
丸尾 英二さま



医療の発展に寄与する取り組み

富士レリオでは臨床医学と基本医学の交流の場を提供するため、「メディコピア教育講演シンポジウム」を1981年から毎年開催するとともに、学術叢書「メディコピア」を発刊しています。また、2017年度は全国10カ所で「ルミパルス® フォーラム」を開催し、さまざまなテーマにおける先生方の講話や富士レリオ製品の使用方法をプログラムとしてご提供しました。2018年度からは、他施設のシステムや精度管理の運用などを知りたいといったルミパルス®を導入されている医療機関の要望を踏まえ、新たに「富士レリオフォーラム」を企画しました。このフォーラムは、当社免疫機器のPRに留まることなく、検査技師さまへの技術教育につながる「検査技師による検査技師のためのレクチャープログラム」をご提供することをコンセプトに全国展開しています。また、厚生労働省「知って、肝炎プロジェクト」の支援も行っています。今後も、このような機会を提供し、皆さまが医療や健康を考えるきっかけをつくることで、さらなる日本における医療の発展に貢献していきます。

第39回
メディコピア
教育講演シンポジウム

966名
参加



第38回メディコピア
教育講演シンポジウム
(2018年1月
東京国際フォーラム)

富士レリオフォーラム
(2018年7月 東京会場)



新興国における 医療環境改善への貢献

エスアールエルでは、インドや中国、韓国、タイなどにおいて、臨床検査に関する指導やその重要性、検査品質向上のための取り組みや考え方など実例を交えて伝える講演や日本のラボ見学を実施しました。また、インドでは採血に関する指導や採血後の検体の処理について指導し、現地の学生や医療スタッフを中心に臨床検査の重要性を伝えました。その他にも、日頃の営業活動の中で、経験を基にした設備に関する改善のアドバイスや患者さまの情報セキュリティなど、検査以外の医療に関して提案することで、地域との信頼関係を築いています。今後は、現地パートナーとともにラボを運営する計画や、新しい検査による医療の効率化や品質向上、それらの積極的な紹介などを進め、世界の医療発展に貢献していきます。



インドの医療行政関係者、医師、医療技術者等に対して、エスアールエルのラボ見学を実施(2017年10月 八王子ラボラトリー)



Voice

事例紹介

技術や最先端検査など実例を交えて講演

エスアールエルではインドにおいて、臨床検査の重要性を説き、品質の高い臨床検査を提供するために弊社の取り組みや考え方を実例を踏まえ講演を実施しました。また、当社の技術や最先端の検査へのアプローチも合わせて紹介しました。特に当社における自動化への取り組みによる効率化やヒューマンエラーの排除については、高い評価を得ることができました。また、遺伝子や染色体検査での技術力についても評価され、日本への外注化の要望もいただくことができました。



エスアールエル
事業戦略部門
海外事業部 部長
内山 修一

「インドにおける国際診断ビジネスの実現に向けた技術トレーニング」に招かれて日本の臨床検査事情を講演(2017年6月 インド・ニューデリー)

TOPICS | グループ会社での取り組み

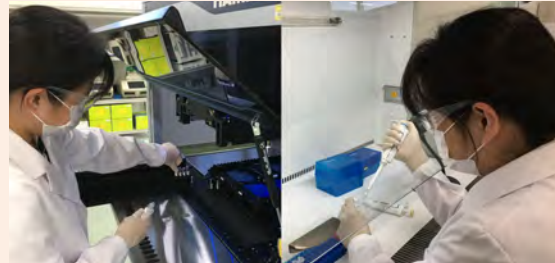
合同会社みらか中央研究所

アンメットメディカルニーズ[※]充足を目指した菌叢に関連する探索的共同研究の推進

菌叢に関する共同研究

マイクロバイーム(菌叢)と中枢神経系や循環器系の疾患群の関連を明らかにする共同研究を開始しました。それ以外にも継続的にアンメットメディカルニーズが存在する領域を選定し、実用化に向けて共同研究を推進していきます。

また、医薬品の奏功性や副作用と菌叢パターンの関連についても受託試験体制を構築しています。



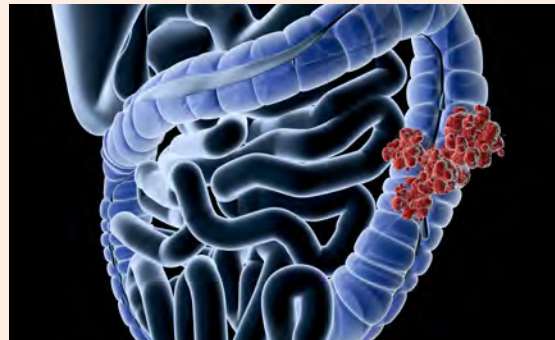
※アンメットメディカルニーズ(Unmet Medical Needs):
いまだ有効な治療方法が確立されていない疾病に対する医薬品・医療へのニーズ

(株)エスアールエル・メディサーチ

がん関連試験受託による、患者様の健康への貢献

事業活動を通じたアンメットメディカルニーズへの取り組み

治験事業を担うエスアールエル・メディサーチでは、販促活動の一環としてがん関連試験の受託をしています。毎週の営業会議にてがん関連試験の最新情報を確認しながら更なる受注を目指していきます。2017年度のがん関連試験受託数は135試験(内昨年度新規受託65試験)となりました。



超希少疾患である酵素補充療法の関連サービス

事業活動を通じたマイノリティニーズへの貢献

ムコ多糖症、ファブリー病及びポンペ病などの超希少疾患治療薬を販売している製薬企業から検体の回収、保管および発送業務を受託しています。業務を通じて、治療効果判定等の迅速化に寄与し、患者様のQOLの向上に貢献しています。2017年度の超希少疾患関連サービスの受託検体数は1,160検体となりました。

